

会報 No.296

キャリア・コンサルタント

2019年（令和元年）7月10日

© キャリア・コンサルタント協同組合

[発行] キャリア・コンサルタント協同組合
発行責任者：渡邊 健三
〒102-0052 東京都千代田区神田小川町 1-8-3
小川町北ビル 8F
Tel: 03-3256-4167（代表）
直通電話：営業本部 03-6821-7544
外実事業部 03-6826-7789
Fax: 03-3256-4168

E-mail：[会報編集部] henshu@ccco.jp
[事務局] jimukyoku@ccco.jp
[営業本部] eigyo@ccco.jp
URL：http://www.occ.or.jp
http://www.ccco.jp
編集長：田中 努
編集者：平松靖弘 影山和子 大野長壽

1. ニホンミツバチのハチミツ（連載第5回）

荻窪研究所 養蜂家 柴田 武

2. 連載 田園中児の「伊呂波歌留多」（第一回）

田園 中児

3. 事務局だより

事務局 田中 努

一粒万倍

1. ニホンミツバチのハチミツ (連載第5回)

荻窪研究所 養蜂家 柴田 武

会報購読者の皆さんは、日頃、どの様なハチミツを愛用されておられますか？水飴等の混じり気の無い純粋なハチミツ派でしょうか、さらに単花蜜と言われる西洋ミツバチのハチミツ派？ あるいは、日本ミツバチの百花蜜派？

★単花蜜：アカシア蜜等の単一花、百花蜜：様々な花々、を蜜源とする。

百花蜜は、自然界に生息するニホンミツバチの生態系から、文字通り山野に咲く多種多様な花々を蜜源とし、成分（ブドウ糖・タンパク質等）の異なる多種類の花々から野性味あり滋養分に富んだハチミツとして採蜜されます。

会では、外部提供への希望が多かったことやホームページの更新と食と農を通し、豊かな田舎暮らし志向の会員のニーズに合わせ、ハチミツの生産（採蜜）から瓶詰めまでの全過程の体制整備を指導することにしました。

ただ、相対以外の委託やインターネット経由では、善意の第三者のハチミツ愛好家への提供が主となることから、生鮮食品としてのハチミツの提供には、それなりのリスクを伴うこともあり、会としての厳格な考え方を規定しました。

★会としてのハチミツの品質基準等を取り決め、「養蜂作業ノート」に掲載。

残念ながら、年一回の採蜜態様もあり、数年し定量的供給の難しいニホンミツバチのハチミツ販売は継続が困難となり、会としての提供は取り止めましたが、その後のハチミツの取り扱いについては、全会員の品質管理や生産者としての自己責任感が確固たるものとなり、現在の会としても、十分に継承されている、と思っています。

1. 採蜜（生産）

全会員の採蜜の手法について、実技講習の実施体制を整備した。

- (1) 毎年秋に実施する模範採取（技術分科会主催）により、採蜜実習に参加した会員のみ、販売と会員呼称の使用を許可した。
- (2) 採蜜後の保管、容器の選定と充填、ラベル（表裏）の作成及び糖度の規定等を確認し、当初はサンプル品の事前検査を義務化した。
- (3) ハチミツの採取～保管～製品過程を通じ、生産者の自己責任を確立し、第三者からのクレーム等への体制を整備した。

2. 販売

基本的には、公的な諸規定（公正競争規約等）に準拠し品質を確保、首都圏等での委託提供は、ハチミツの品質管理等の順守を取り決めた。

- (1) 会として、糖度計・水分計を常備、ハチミツの糖度を厳格に規定。
- (2) 容器の選定、商品に相応しいラベルも会としての推奨図案を提供。
- (3) 会のホームページを更新、ハチミツのネット販売欄も拡充した。

3. クレーム処理委員会の設置

蜜源植物・養蜂技術分科会他の当初会員5名によるクレーム処理委員会を設置し、第三者からのクレーム処理の対応とした。（支援中のクレーム皆無。）

★滋養分豊かなハチミツの愛用で、楽しく健康な好日を！！ ご愛読を感謝。



ハチミツと棚田



ニホンミツバチのはちみつ

編集委員より：長い間貴重な原稿有難う御座いました。お礼を申し上げます。

2. 連載 田園中児の「伊呂波歌留多」第一回

田園 中児

現在では「いろは四十七文字」（「ん」を加へると四十八文字）を知っている人が少なくなつて、「いの一覧」の意味が分からない人も多い。昨今ではコロナウィドグループが運営する居酒屋で「いろはにほへと」といふ屋号が使はれている。その他日光の「いろは坂」ぐらいである。「いろはにほへと」は七五調四句の歌でその意味は、「色は匂へど散りぬるを、我が世たれぞ常ならむ、有為の奥山今日越えて浅き夢見じ、酔ひもせず」で涅槃経の四句の偈（げ）〔諸行無常、是生滅法、生滅滅已、肅滅為樂〕の意をとったものといはれてゐる

嘗ては、江戸時代の火消しの纏が「いろは・・・組」であり、寄席の下足札や風呂屋の下駄箱もいろは順であつた。又、江戸・京（上方）・中京（尾張）にはそれぞれの「いろはがるた」があつた。襖の下張りも「いろは」の文字が斜めに書かれてゐた。「いろは」は今では、学校では教えてゐない。しかも、手元にある「岩波 いろはカルタ辞典」は伊呂波引きではなく五十音順になつてゐる。「いろは・・・」は現在も生きており、今でも習い事の初歩の部分で「いろは」と言ふ。人口に膾炙された古典であつて、見直されるときが必ず来るであらう。

あいうえお、かきくけこ・・・は何の意味も持たないが、いろは四十七文字はそのまま歌になつてゐる。そこで、言い伝へ・故事ことわざ・譬（たとへ）・成句・慣用句・四字熟語・漢詩・カルタ等から私の好きな言葉を選んで、独断と偏見で解釈し、その考へ方を探つて田園中児の「伊呂波歌留多」と題し連載を試みる。本来は縦書きであるが会報の編集上横書きにした。また、歴史的仮名遣ひで書いてみたが、あまり自信がないので、ご意見をお聞かせ願ひたい。

伊呂波順にして以下の通りの章を立てて5回の連載とする

- 第1章 色は匂へど散りぬるを の巻
- 第2章 わが世誰ぞ常ならむ の巻
- 第3章 有為の奥山今日越えて の巻
- 第4章 浅き夢見じ酔ひもせず の巻
- 最終章 番外編（戯れ唄・春歌）の巻

注：涅槃経の四句の偈（げ）の意

諸行無常（しょぎょうむじょう）：世に中一切のものは永久不変ではない

是生滅法（ぜしょうめつぽう）：生命あるものは何時かは滅びる

生滅滅已（しょうめつめつじ）：生と死が滅して現世を超える

肅滅為樂（じやくめついらく）：迷いから離れた悟りの境地が楽しい

第一章 色は匂へど散りぬるを の巻

「い」の部 [一寸の虫にも五分の魂(=神)] (略して五分の魂)

私の一番好きな言葉であり、表題をこれにしやうと思ったが既に、同名の本が出版されてゐた。神は靈魂であり魂であることから、ここでは敢えて、たましひに「神」を使ってみたい。弱小なものにもそれ相当な思慮や意地をもってゐるといふ意味である。例え小さなものであっても侮ってはいけない。一寸に五分とは大きな魂である。江戸川柳に「一寸の草にも五分の花が咲き」と読まれ自然に対する観察力が窺へる。何故一寸なのか、一分と五厘ではないのか？「毒虫は五尺の人の命をとる」といふから一寸が適切だらうし、一寸は約三センチで単位としては手頃である。一寸の付く言葉を探してみると、「一寸刻みで前進し」、「一寸先は闇であり」、「一寸下は地獄である」。「一寸進むも二寸進むも同じ」と言ふ言葉もある。

注：「いろはにほへ」の「色は匂う」とは花の色が目に見える様を表している。

「ろ」の部 [論語読みの論語知らず]

論語を学び覚えても内容が身についてゐないこと。庶民によるインテリ批判である。言葉や内容を理解していても生活指針として実行できない。理屈は分かつてゐるが実践では役に立たない。理論軽視を生む土壌を戒めている。キャリアがあっても指導できない人もゐる。学習しない人も同じである。それと世間は日進月歩であり、過去の知識と経験だけでは生活は出来ない。「論語読みの論語知らずより論語読まずの論語知らずの方がよっぽど徳である」と皮肉られる。

「は」の部 [箸にも棒にも掛からない]

どうにも取り扱いやうのないといふ譬へである。「縄にも杓子にも掛からぬ」とも言ふ。ところで近頃は箸を上手く使へない人が多い。確かに箸で食事をしてゐるが、おかずをつまんだり、魚の骨をむしったり出来ずに突っついているのである。箸の使い方が正常であって始めてこの言葉が生きて来る。箸の上げ下げと使ひ方こそ「しぐさ」である。私はスパゲッティを食べるのにフォークを使へず箸で食べている。イタリア料理店では「箸を置いていないのは当然である」と言われたことがある。「箸に当り棒に当る」となると腹を立て、関係のない人に八つ当たりすることになってしまう。

「に」の部 [憎まれっ子世に憚る(=蔓延る)]

人から憎まれたり疎まれたりする人間は生活力が旺盛なので世間に出ると出世すると言ふ意味。「憎まれっ子の端菜(はなざい=僅かの野菜)」といはれ食事のときは食べ物を少ししか貰えず仲間はずれにされる。「憎まれっ子頭堅(かみかた)し」とも言はれ、乱暴でいたずらっ子は概して丈夫である。一方では「悪

い奴ほど良く眠る」といはれる。しかし、憎まれっ子は世間から決して疎外されてばかりではなく、独立独歩で力強く前へ進むのである。自信があるので世間からそう簡単に追放されないし、存在自体に意義がある。ただ憎まれっ子と嫌われっ子は違うし、相性の悪い人もある。「憎まれてきたる甲斐は無けれども可愛がられての死よりまし」である。

「ほ」の部 [骨折り損の草臥れ儲け]

労力ばかり掛かって何の効果もなく、ただ疲労だけが残るといふ意味で、正に無駄骨を折り、馬鹿な目を見、労して益なしといふ訳だ。ところで「骨」といふ言葉はいろいろと使はれる。その一例を挙げれば「骨がある」・「骨に刻む」・「骨にこたえる」・「骨に染みる」・「骨身を削る」・「骨惜しみ」・「骨抜き」・「骨休め」等々がある。「骨まで愛して」という歌謡曲もあり、骨には古くから苦勞といふ意味があり、骨は人間における「愛」と堅く結びついてゐる。骨折りにも計画性が必要である。骨を折って叱られるのは傘屋の職人だけであらう。この職人も今では少なくなつてゐる。

「へ」の部 [下手の考え休むに似たり]

碁や将棋で下手の長考は時間の浪費である。「下手の思案は休むに同じ」ともいふ。しかし下手があるので上手があるのであって、馬鹿がいるから利口が引き立つのである。全員が上手であればつまらない世の中になってしまう。色々な人が混在して生活しているので社会が成り立ってゐる。無駄な時間遣ひを嘲笑した句に「案ずるより産むが易い」といふのがある。これは考えるより実行すれば結果はうまく運ぶといふ意味だ。

「と」の部 [遠くの親戚よりも近くの他人]

遠方の親類より近所の他人のほうが何かの時に頼りになるといふことだ。核家族化が進むと親類どころか親子も疎遠になり別々の生活をしてゐる。定年後の亭主族は近所の付き合いがほとんどない。付き合いは普段からの心掛けが必要であり、特に災害のときは隣近所が頼りになる。一方、他人に干渉されるのを嫌ふ人も多く、孤独死する人も増えてゐる。「遠き親子よりも近き隣」とも言ふ。「兄弟は他人の始まり」であり、夫婦からして所詮他人である。人は人によって生かされてゐるのであり、人との付き合いや交際を大切にすべきである。

「ち」の部 [長者の万灯より貧者(=貧女)の一灯]

原典は仏典であり、金持ちの多額な供物より貧しい人のローソク一本の寄進が、はるかに尊く、功德があるといふこと。物量が多い少ないよりも、人間の真心が大切である。人に接するときは真心を込めて、その相手の立場に立てるかで、その人の信頼感が変はる。何でも金で買へる時代になつても、真心は金では買へない。「綴れを着ても心は錦」と言はれたい。万灯は仏前で灯すたくさんの方灯のこと。

「り」の部 [理を以って非に落ちる]

「理に勝ちて非に負ける」とも言ふ。ここでの理は理屈ではなく、原理原則すなはち一般的な道理を指す。非は理から外れたことである。議論では道理にかなった主張によって勝っても、実質的には負けるといふこと。かかる時は、出発点に戻り、考え直して計画を立て直すことが必要。原理原則を押し通すと返って不利な立場になることが、会議の席上でも見受けられる。「理に負けて非に勝て」といふことである。「理に勝つ法はあれども法に勝つ理はなし」で法律と道理がぶつかった時、勝つのは法律である。そこで裁判官の裁量が試されるのである。理屈につひては「理屈と膏薬はどこにでも貼りつく」といはれどんなことでも理屈はつけられるのである。

「ぬ」の部 [盗人を捕えて縄を縋(な)う]

「泥棒を捕えて縄を縋う」ともいはれ、簡略化して「泥縄」と言ふ。前もって準備せず行き当たりばったりで物事を処理する。または事が起こってから慌てて準備することで、手遅れになる譬へ。「盗人も戸締り」といはれ、泥棒もそれなりの用意と計画を立てている。つまり相手より先手を打たねばならない。あらかじめ決まっている会議でも、資料を用意せずにあわててコピーしている人がある。「盗人去って縄を縋う」と強調の度合いを高めた表現もある。

「る」の部 [類は友を作って集まる]

「類は友を呼ぶ」「類を以って友とする」とも言はれ、似たもの同士が互いにあつまること。中国の詩集「詩経」にあり太古より言ひ継がれている。動物は同じ仲間と群れをつくり、人間も同じで良友は良友同志、悪友は悪友同志が集まる。従って友人を見れば本人の人格も凡そ分かるものである。人は人によって良くも悪くもなる。親子と異なり友人は選ぶことが出来る。一生交流できる友人を作りたいものだ。

「を」の部 [教(をし)うるは学ぶの半(なか)ば]

人に教うるには自分の知識不足や曖昧さをはっきりさせるから半分は自分のものになり、自分の学問も進歩するといふこと。出典は中国の「書経」で終始、学問を心掛けて、間断がなければその徳は自分のものになるとしてゐる。人前での講演や人に教うるにはその何倍かの勉強や調査が必要である。教うるはその何倍も学ぶことになり、教うるのは自分の為でもある。毎年同じ講義をしている先生もゐるが、これでは進歩がない。また、人の話を良く聞くこともその人にとって血や肉になる。

3. 事務局だより

事務局 田中 努

●6月18日(火)理事会終了後岡崎理事による「トヨタと日産の違い」という講演がありました。その中で自動車の販売手法が両社で大きな相違があるとの話でした。簡単に話の内容を以下の通り纏めてみました。

【自動車の所有や使用状況は、現金購入(使用車の所有)～割賦購入(所有は自動車販売会社)～リース(所有はリース会社)～レンタカー～タイムシェアと変化しています。つまり自動車の販売先が使用者である法人や個人から業者へと変って来ています。その販売手法に関して、「トヨタは会社(組織)営業」「ニッサンは個人営業」中心と大きく分かれています。自動車販売会社にとって重要な顧客は「トヨタにとっては会社のもの」「ニッサンにとっては営業マン個人のもの」と考え方に大きな違いがあります。従って売上管理や販売管理の違いがあるのはもちろん、新入社員の教育方法にも違いが出て来るし、顧客への説明資料や販売促進の方法も自ずから違って来ます。】

●事務局の平松さんが6月21日(金)に奥様と二人で組合の事務所にお礼の挨拶にお見えになりました。前回の検査結果が判明していないのですが、お見かけしたところお元気な様子でした。検査をするといろいろと悪いところが発見されているようです。また、27日(木)にも事務所にお見えになり、影山さんを中心に打合せを行いました。一見お元気のように見えますが、事務所への出勤は当分無理のようです。現在は毎月一回の検診と診察を受けられています。

●8月の当組合の夏休みはカレンダーの都合上、振替休日を含めて10日(土)～18日(日)となり、5月に続いて9連休と長くなりました。また、20日(火)の理事会終了後、午後4時より会議室で「暑気払い」を行うことになりました。参加費は無料としますが寄付や持込は大歓迎です。皆様の参加をお待ちしています。尚、参加者は事前に事務局まで連絡下さい。

●荻窪研究所の養蜂家の柴田武様5回に亘って「ニホンミツバチのハチミツ」と題して寄稿頂きまして有難う御座いました。おかげさまで楽しく読ませていただきました。原稿の集まりが少ない中での連載で助かりました。今後とも宜しくお願いします。

●当組合の夏休みは8月10日(土)～18日(日)と長くなり、原稿の集まりも少なく、8月号の会報は「休刊」とし、「事務局だより」のみの発行とします。夏休みを如何に過ごされたかを、是非原稿としてお送りくだされば幸甚です

● 7月の行事等の予定（7月3日現在）

- 3日（水）事業部長会（10：30）、セミナー研修部会（13：00）
- 5日（金）運営会議（10：30）応接室、BCセミナーMK2 NTT（10：00）
- 7日（日）BCセミナーMK2（10：00）
- 10日（水）営担会議（10：30）、
- 12日（金）BCセミナー経戦2 NTT（10：00）
- 14日（日）BCセミナー営③（10：00）
- 16日（火）営担会議（10：30）、理事会（13：00）、Pマーク研修（15：00）

Pマーク研修は非常に大切な講座です。

*Pマークとは個人情報の保護を、組織として対応することを第三者機関が認定する制度で、官公庁の入札の資格や大企業との取引に要求される。またCCKはPマーク認証取得のコンサルティングを行っているので、組合員・賛助会員全員の出席を求めるものです。都合のつく人は是非参加して下さい。

- 18日（木）BCセミナーMK2 NTT（10：00）
- 21日（日）BCセミナー経戦2（10：00）
- 24日（水）営担会議（10：30）
- 25日（木）BCセミナー経戦2 NTT（10：00）
- 27日（土）BCセミナーMK2
- 31日（水）営担会議（10：30）

● 8月の行事等の予定（7月3日現在）

- 2日（金）セミナー研修部会
- 4日（日）BCセミナー経戦2（10：00）
- 6日（火）運営会議（10：30）
- 7日（水）事業部長会議（10：30）、
- 8日（木）BCセミナーMK2 NTT（10：00）
- 10日（土）
↓ **事務局夏休み**
- 18日（日）
- 19日（月）BCセミナー経戦③ 補講（10：00）
- 20日（火）理事会（13：00）、暑気払い（16：00）
- 21日（水）営担会議（10：30）
- 22日（木）BCセミナー経戦① 補講（10：00）
- 23日（金）BCセミナー経戦② 補講（10：00）
- 24日（土）BCセミナーMK2
- 25日（日）BCセミナー経戦2
- 28日（水）営担会議（10：30）

一粒万倍

▲3年に1回の参議院議員選挙の日程が決まりました。7月4日（木）公示、投票日は21日（日）で、安倍首相は衆議院議員選挙とのダブル選挙は避けたようです。野党が一人区で統一候補を擁立したが、各党の思惑があり、どういう結果が待っている事だろう。新聞紙上ではいろいろと予想が出ているが、我々国民は義務として投票所へ足を運ぼう。

▲6月28,29日に掛けて「G20大阪サミット」が大阪市で開催された。世界各国から指導者が集まりいろいろと議論されたようですが、「反保護主義」に関しては素通りしたようです。トランプ大統領は「日米安保条約」については「片務契約」であり、米国にとって負担が多すぎるなどと言ったとか言わなかったとか。主催国である日本の頭ごなしに、米中、米韓、米朝と接触し、トランプ大統領は北朝鮮の領土に足を踏み入れた。安倍首相はトランプ大統領に弄ばれているのではないか？

▲最近のマスコミはやたらと問題を大きくしている。年金の2000万円問題も言葉が独り歩きしている。国会でも野党議員の質問も2000万円という言葉の問題にしているが、ファイナンシャルプランナーが以前から言っている本質を突いたものである。高齢化が進む現在、一人ひとりで事情が違うものを一律に議論するのもおかしい。国会議員はもっと日本国の未来の目標を真剣に議論してほしい。また、サミットにおける安倍首相の大阪城のエレベーター問題にしても「ジョーク」と受け止めれば、問題ない。ただ最近のお城の再建や補修では原型を大切にする傾向があり、エレベーター以外のバリアフリー化も考えなければならない。

▲7月1日より改正健康増進法の一部が施行され「喫煙者」にとってはますます肩身が狭くなったようだ。学校・病院・行政機関・児童福祉施設などで、屋内は完全禁煙、敷地内も原則禁煙となった。また、来年4月1日からは飲食店・職場・鉄道・ホテルのロビーなどの屋内は原則禁煙となる。当組合では灰皿は完全に撤去されている。路上禁煙となっている都市生活ではどこで紫煙を燻らせられるのか。「今日も元気だ。煙草がうまい」「タバコは動くアクセサリ」などと言われた時代には、職場や家庭の応接室（間）ではどこでも灰皿が置いてあり、場合によっては「煙草」を備えていた。昭和30年代までは高校生も内緒でタバコをすっており、大学生になると18歳でも堂々と煙を吐いていた。現在、家庭内で嫌煙権を理由にベランダや玄関の外で煙を燻らしている「ホタル族」の行く末はどうなるのであろうか。